



LETTER

121

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

2012. 12

- PHD Movement Vol.5 . . . P. 2-3
- 30期研修生レポート . . . P. 6-7
- 帰国研修生短信 . . . P. 9-10

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和（Peace）と健康（Health）を担う人づくり（Human Development）をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：公益財団法人PHD協会 理事長 今井鎮雄
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL：078-351-4892 FAX：078-351-4867
E-mail：info@phd-kobe.org
URL：http://www.phd-kobe.org
郵便振替口座：公益財団法人PHD協会 01110-6-29688



「うんとこしょ、どっこいしょ」と一生懸命草をひっぱる園児。
ここはインドネシア、タベ村の幼稚園。
ミミさん（02年度）、エリさん（03年度）が働いている。

教育や規律と共に大事にしているのが「助け合い」。
インドネシアではゴトン・ロヨン（相互扶助）と呼ばれる。
ジャワ語で「一緒に働く」という意味。

「小さな時から助け合いの大事さを学んでもらいたい」とエリさん。
ミミさんたちの想いは次世代へ受け継がれていく。



インドネシア西スマトラ州タベ村 撮影：SAKANISHI T.

PHD Movement vol.5

～分かち合い実践録～

事務局長 坂西卓郎

ミャンマーの民主化と研修生

◆スーチーさんがいっぱいいる国

ミャンマーではアウンサンスーチーさんのことを親しみを込めて「ドゥーサー」（スーおばさん）と呼ぶ。が、今まで私たちがツアー等で訪問する際にはその言葉を聞くことはなかった。しかし今年度の訪問ではあちらこちらで「ドゥーサー」という言葉が聞かれ、お店ではスーチーさんの写真や書籍が販売されていた。どちらも昨年3月末の民政移管前では考えられないことであり、大変驚かされた。後で調べたところ、昨年9月7日に政府によってスーチーさん関係の書籍や肖像画の販売が解禁されたとのことだった。



スーチーさんグッズばかりを売るお店

◆研修生の村にも変化が

ビザの問題があり、2009年度を最後に研修生の招聘は見送ってきた。その一番の壁は法律的なことよりも「研修生の恐怖心」であった。研修生を送り出すことで様々な問題が生じる可能性があり、研修生たちとよく話し合った結果、招聘をしばらく休止するという判断を下した。

しかし今年は「私の村からも呼んでくれ」という声が相次いだ。これも今までは考えられないことで、今年も選考ができないかも知れないという覚悟で訪問した私たちとしては面食らった。



久々のタダインシェでの選考

◆質の高い候補者たち

結局、3つの地域で合計4回の選考をし、計10人の面接を行った。帰国研修生たちの「研修生を送り出したい」という積極的な思いは嬉しかったが、それよりも嬉しかったのは候補者の質が高かったことである。今回の候補者のうち半数の5名は基準点を超える人たちで、どの人が研修生に選ばれてもおかしくはなかった。

またタウンティンさん（93年度）も「面接してみて、若い人たちの意欲に驚いた。みんな村のことをよく考えている。私は日本でみなさんの支援を受けるまで自分のことしか考えていなかった。嬉しい変化だ」と語ってくれた。

◆来年はモーママさん

そんな激戦の選考を勝ち抜いたのはモーママさん21歳。新時代のミャンマーを象徴するかのような個性と積極性を兼ね備えた女性である。すでにマンガレーYMCAのトレーニングなどを受け、マラリア予防の普及活動を行うなどの実績を持つ。研修生のティダさん（07年度）、ススさん（06年度）との連携が期待できる。またインタビューでは「困った時はムームーさん（95年度）に相談してきた。彼女からは我慢することを学んだ。尊敬している」と語るなど、研修生の思いを継ぐ役割も期待される。

また彼女はSimple Lifeというグルー

プに所属し、すでに活動をしている（詳細はP.10）。日本での経験は彼女の成長をさらに促進すると強く信じている。

最後に副次的な期待としては、現在のミャンマーを伝える役割への期待がある。彼女の存在は現在の変化するミャンマーを知る機会を日本人に与えてくれるだろう。



来年度の研修生モーママさん
ティダさんたちと普及させた飲料水ポット

◆2013年夏、ミャンマーツアー開催

そして来年度は久々にミャンマースタディーツアーを開催する予定である。変化するミャンマーを体感しに、そしてその中で奮闘する研修生に会いに行きませんか。

インドネシア 研修生選考ダイジェスト

◆大激論の選考ミーティング開始

来年度研修生の選考にはタベ村から3人、タラタジャラン村から4人の計7人が手を挙げてくれた。選考は全体説明、個別面接、グループディスカッション、家庭訪問の順で行った。

選考ミーティングは最終日に行った。参加者はダスウィルさん（99年度）、アフダールさん（00年度）、アルウィさん（01年度）、ミミさん（02年度）、エルリナさん（03年度）、アフリタさん（04年度）、ペリスマンさん（08年度）、ロザさん（09年度）、インドラさん（10年度）、エリザさん（11年度）。

◆順調だった第一次選考

最初に第一次選考として投票を行い、ここで3人に絞る。便宜的にAさん（女性）、Bさん（女性）、Cさん（男性）とする。投票は全員の参加を保障するというのと、場を盛り上げ参加度を高めるためのもの。基本的には投票という間接民主主義のスタイルは少数意見の圧迫が行われる可能性があるので望ましくない。が、第一次選考ではほぼブレがないという判断で、上記を優先し行った。

◆「帰国後村に残るかどうか」

最終選考では研修生一人ずつに第一候補と第二候補及び理由を挙げてもらう。順番は来日順の逆、つまりエリザさんが最初で最後がダスウィルさん。

それぞれの意見の詳細は紙面の都合で掲載できないが、アルウィさんとダスウィルさんが全体的に評価の高くなかったBさんを推した。その主な理由が「男性は結婚したら村を出て行く可能性がある」とのことだった。（※この地域では男性が婿入りする習慣がある）この2人の発言により、場が振り出しに戻る。結婚問題への指摘に影響を受け、何人かが意見を翻す。が、アフリタさんは最初から変わらず、同じカユジャングイ村のCさんを推す展開。



性別、年齢に関わらずみんなが意見を述べる

◆意見を言わないPHD

しばらく議論をした後、ダスウィルさんがミナン語で語りはじめ、「最後は坂西の判断に委ねる」ということで研修生の意見をまとめた模様。

せっかくなのでここまで研修生の主体性を

大切にして進めてきたのに、最終決定をPHDがしては意味がない。

「PHDにわかるのは日本での研修適度ぐらい。一番大事なのは日本でどうかではなく、村に帰ってからがんばれるかどうか。それが誰かは私たちにわからない。だから研修生みんなの意見が大事。面接だけなら私はDさんが良いと思った」と再度説明。

◆能力よりも信頼が大事

実際にPHD側の面接後の第一印象ではDさんが良かった。しかし、研修生に評判を聞くと「頭はいいが、自分のことしか考えない」と口を揃えて言う。みんなのために働けない人は研修生にはふさわしくないで落選。このように面接時の言動や能力だけでは研修生を選ぶことはできない。

◆土壇場でのどんでん返し

最後に一人ずつ意見を言ってもらう。ダスウィルさんは依然Bさんを推すが、アフリタさんをはじめアルウィさんもCさんを。他もCさんを推す意見が多いようだが、Bさんでもいいという意見も多く、決め手にかける。

再度投票を行うと、意外にもBさんが8票、Cさんが5票となった。これで決まりかと思った際に突然、研修生たちがミナン語で激しい議論を始める。その結果「いつも村に居るのはアフリタさん。その彼女がCさんを強く良いと言っている」という話で、場はその意見に納得した様子。ということで投票を覆し男性のCさん、ダリスマンさんが来年度研修生として決定した。

◆同じ村のアフリタさんの思い

約4時間という難産の末の決定だったが、研修生自身が結婚の事、つまり帰国後村に残って活動するかという点を考えてくれ嬉しかった。

今回も主にはそこが焦点だった。最終的に選ばれたのは未婚の男性であり、ミナンカバウ文化を考えると村からい

なくなる可能性もある。

しかし、一緒に村づくりをやっていくアフリタさんの意見が最終的に通ったこともまた嬉しい。このプロセスでアフリタさんには「自分たちが送り出した」というしっかりとした気持ちが芽生えたことだろう。選ばれたダリスマンさんと一緒に確実に村のために活動してくれることと思う。その日が今から楽しみである。



来年度の研修生ダリスマンさんと
同じ村のアフリタさん（04年度）

提唱者 温故知新 岩村昇語録

～私は我慢を知っている～
当時ネパールの少女は重労働で消耗しても栄養を補う物を食べていなかった。そして13歳ぐらいで初潮を迎え娶られていく。妊娠しても骨盤が発達していないので、2-3割は死産になる。

それを防止するためにネパールの少女に「このお米を腹いっぱい食べて」と言うと「私はもう12歳で我慢することを知っている。でも弟は5歳で知らないから弟に食べさせて」と。

（『ネパールから祖国へ』より抜粋）

岩村先生はこの話から「いったい人間にとって一番大事な心というのは、どうやって育てていくのか」と問い、「敗戦後私たちはひもじい思いをしてきた。腹いっぱい食べるために経済成長はしたけど、子ども達に一番大切なことを伝えていないのではないか」と締めくくっておられます。

私自身も飢えを体験したことのない世代。我慢を知っていると云えるだろうかと自問自答させられました。

夏のスタディツアー報告

スタディツアーで訪れたインドネシア、海外出張として指導者と訪れたタイ・ミャンマー。ご参加下さった方のレポートの一部をご紹介します。

ミャンマー・タイの研修生たちに出会う旅
保健衛生指導者 寒者 恵さん

保健衛生の指導者として、8年ぶりにミャンマーを訪ねた。研修生のうち特に女性陣は、幼稚園や診療所の運営や補助の仕事のほか、「シンプル・ライフ」というグループをつくり、主に環境保護に関する活動を展開していた。例えばこどもの好きなお菓子の添加物や袋入りインスタントコーヒーのアルミコーティングなど、中国からの輸入品のお菓子類は、要チェックらしく、みんなが集まる機会を利用して注意を促していた。

また、ミャンマーは、蚊が媒介するマラリアが多く、熱が出て診療所に来た人に「マラリアキット」という器具を使い、血液検査でマラリアとわかると薬を患者さんに手渡しているのを見て、研修生たちは村にしっかりと根付いているのだなあと思信した。

待望の図書館は、本が何冊か揃ったが、内装と屋根がまだ出来上がってない状況。研修生たちの熱い目は、夢の実現に向かってまだまだ遠くを見ているように思えた。

タイのムシキー村は、4年ぶり。今、建設ラッシュだそう。2年後には、山の木を切ることができなくなるらしい。ホームステイしたボーディーヤさんの家もとても立派な家になっていて、特に台所は、薪からガスに変わり、かまどは立って料理ができるように変わっていた。(以前は、床にしゃがんで料理を作っていた。)

村の女性たちは、家事の合間に手織布の製品作りをしているが、集会で「収入が増えると何を買いたい?」と尋ねたところ、ほとんどの人が「こどもの

教育費に使いたい」と答えた。「電気製品などがほしい」というような答えを期待していた私には、思いがけない返事にビックリした。アジアの発展途上国の母親は、特に「子どもにはいい教育を受けさせたい。楽をさせたい」という思いが強い。しかしよく考えるとその思いは、万国共通の親の願いかもしれない。

今回タイやミャンマーの研修生に出会う旅を終えて、研修生たちが、本当に村のために一生懸命努力をしていること、お互いが連絡を取り合いながら一緒に悩み、考え、答えを出している姿に誇りと安心感を覚えました。自分を見失うことなく、各々の信念を貫いてほしいと思います。



ムシキーの布のグループ

ミャンマー・タイスタディツアー
農業指導者 真柴 三幸さん

(タイのプラチャックさんは)「お父さんに教えてもらった堆肥作りは今も続けている」と。稲藁と豚の糞、堆肥の材料はすぐ多量に手に入るもので作っている。落ち葉雑草は労力がかかるから使っていないようだ。タイは急速に経済が発展して消費文明が広まり、農業での自給自足の生活ができなくなり現金収入を求めて兼業農家になってしまった。日本も同じだ。

(ミャンマーのスウェウインさんは、)自分の土地が少ない為、マンゴや米等の農産物の仲買をして村の人たちのために働きながらお金を貯め、土地を増やし、水田を畑に改良し、マンゴを作る夢を持っているとの事。「お父さんも若い時は生活を切り詰めて牛1頭から50頭まで増やしたのだ」と言ったら、彼は「お父さんと一緒」と言うてにっ

こり笑って握手をした。

ゾーウィンさんは「お父さんに教わったボカシ作りは菌が手に入らないのでしていない」と言った。そこで私は、ゾーウィンさんと村の人たちに堆肥の作り方を説明した。「畑にある雑草を刈り、その雑草と糞と家畜の糞尿をサンドイッチにして積み上げ、水分のない時は水を足して60～65%の水分にし、時々切り返しをしながら3～6ヵ月すると完熟堆肥になる」と言う、「これならできる」と言うてくれた。

インドネシアスタディツアーに参加して
大学生 野崎 祐太さん

今回は、去年に続き2回目。村には産婆的なものもあるそうですが、ちゃんとした資格のあるピダン(助産師)をみなさん利用するようです。自分も看護師を目指す身で見れてよかったです。

ピダンの活動で最も気になったのが「避妊」です。インドネシアでは、男性がコンドームの使用を嫌い、女性に一方的に避妊をさせているそうです。あちらの避妊法は、ピル、インプラント、注射が主流のようです。他の避妊方法としては、コンドーム、殺精子剤、IUD、基礎体温法などありますが、これらはない模様。

インプラントとはなにか?二の腕の内側に入れるものらしく一定期間は妊娠しないそうなのですが、やはり副作用などがあるようです。こういった女性にのみ負担を強いる避妊はよくありません。研修生男性陣曰く(コンドームは)使わない・嫌いとのことによほどどことがないと改善はできないというのを感じました。



ピダン(助産師)のソニヤさん

日々是東奔西走

研修担当 今里拓哉

指導者の想いに触れて

研修担当としてPHD協会に勤め始め、5ヵ月が過ぎようとしています。日々、指導者やホストファミリーをはじめとする多くの関係者の方々と研修を調整しながら、研修生たちと共に兵庫県内を行き来し、大変充実しています。その一方で、常に次やその次の研修の調整に追われていたため、当会の活動についてゆっくりと考える暇がありませんでした。この場を借りて少し私なりに考察してみたいと思います。

と言いますのも、私が過去に勤めてきたいくつかのNGOではない感覚を、PHD協会ではしばしば感じるがあるのです。それが何なのか、これまで考える時間を取ることがありませんでした。それに気づくことができたのは、研修生と共に農業指導者を訪れ、私も一泊させていただきながら研修に同行させていただいた時のことでした。

その指導者は研修生から村の様子、畑の状態、研修希望などを丁寧に聞き、「それだったらジャガイモと一緒に植えてみよう」「ではレモンの勉強もしてみよう」と言うて下さいました。この時間と手間のかかるボランティアベースの研修を、まこと丁寧にかつ親身になって受入れてくださっている様子を見た際、「支えられている」と実感しました。以前から指導者やホストファミリー、ボランティア、寄附者の方々と接する際に感じていたこの感覚は、支えられている実感の大きさだったのです。

顔が見える喜び

考えてみたら、多くのNGOは活動を実施するためにその資金を助成金という形によって得ており、私がかつて勤めていたNGOもそんな団体の一つでした。その場合、そのNGOの活動は助成団体によって振り込まれる助成金によって支えられています。大きな支援をいただいていると頭ではわかっていても、感覚としてはなかなか感じられないのです。それもそのはずで、

助成団体とのやりとりはNGO側と助成団体側の担当者間のみであり、その先には支援者とNGOの現場や受益者とは顔の見える関係にないのです。

それに比べ、PHD協会は常に支えられていることを実感できる貴重なNGOの一つなのかもしれません。指導者やホストファミリーに接する際だけでなく、事務所においてもスタッフの間で会費やご寄附を下された方々一人ひとりのお名前を拝見するたびに、任されている仕事に更なるやる気をいただき、またPHD運動そのものにも自信をいただいています。支えて下さっている方々との顔の見える関係は、PHD協会のすばらしい一面なのです。



研修生のテリさんと

7月

- 14日 コープ住吉 バザー (安本)
- 17日 聖和短期大学 講義 (井上)
- 22日 加東市連合婦人会 交流会 (坂西・今里)
- 27日 ネパールスタディツアー ～8月5日 (坂西・井上)
- 28日 しあわせの村まつり バザー (シルバーカレッジ国際友の会の皆様)
- 29日 地区米山奨学セミナー、新規奨学生歓迎会 (今里、研修生3名)

8月

- 6、7日 JICA 関西「多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」(今里)、NGO 相談員として (井上)
- 9日 青年海外協力隊 OB 会 座談会 (川原)
- 17日 神戸学院大学 サマーボランティア受入
- 20日 インドネシアスタディツアー ～28日 (坂西・今里)
- 29日 NGO 相談員・JICA 国際協力推進委員との意見交換会 (坂西)

9月

- 2日 タイ・ミャンマー出張 ～14日 (坂西・川原)
- 3日 兵庫県協同組合連絡協議会 勉強会 (井上)
- 7日 神戸学院大学 サマーボランティア受入
- 14日 コープ白川台 活動報告会 (藤原・安本)
- 15日 コープこうべ スタディツアー報告会 (井上・藤原)
- 市民活動センター神戸 総会 (坂西)
- 19日 神戸 NGO 協議会 定例会 (坂西)



10月

- ダイハツ労働組合 来訪 (坂西)
- 20日 月刊誌イグザミナ 取材 (坂西)
- 22日 滋賀「ちいき発見!カフェ」NGO 相談員として (坂西)
- 29日 立命館守山高等学校 国際貢献の授業 (川原・安本)
- 5日 HYOCON 勉強会 (坂西)
- 兵庫県協同組合連絡協議会 来訪 (坂西)
- 6日 グローバルフェスタ NGO 相談員として (井上)
- 10日 篠山ロータリークラブ 卓話 (井上・アチャンマ)
- 12日 丹波市立柏原中学校 講義 (坂西・アチャンマ)
- 大阪経済大学ミニフォーラム NGO 相談員として (井上)
- 13日 神戸市シルバーカレッジ学園祭 バザー (シルバーカレッジ国際友の会の皆様)
- 19日 第2回 NGO-JICA 協議会 NGO 相談員として (坂西)
- 20日 マイチケットスタディツアー合同説明会 (井上)
- 高砂に PHD 研修生を迎える会 交流会 (安本・テリ・アチャンマ)、NGO 相談員として (今里)
- 21日 岡山県国際交流協会 講演 (坂西・ランマヤ)
- 23日 神戸中ロータリークラブ 卓話 (井上・ランマヤ)
- 26日 コープ白川台組合祭 交流会 (坂西・藤原・ランマヤ)
- 27日 大阪 YMCA 創立 130 周年記念 パネルディスカッション (坂西)
- 31日 大阪経済大学インターン受入

30期研修生レポート

研修も後半に入り、帰国後の取り組みを思い描きながら研修を続けています

共通研修

兵庫県養鶏協会（神戸市中央区／養鶏）
（株）奥野（加古川市／養鶏）

アドリガルさん（通称デリスさん） （35歳・インドネシア）



養鶏実習の様子

これまで何を研修しましたか？

わたしは 1年ほど けうきのうきょう
はちみつ、にちり、うし、
ほけんせいせい たくもんべんきょう
できました。いちばん
よかったは にちりの
べんきょうです。

村に戻ってチャレンジしたいことは、 何ですか？

わたしは インドネシアの
おらでは にちり アヂ
います。かえりから にちり
30羽にしたいです。にちりの
ニはんは はっこうせします。
はっこうした ニはんたべると
にちり げんきです。
うしは においはいと
やわらかいです。やせいに あけると
やせい けんき なります。
あとで さいます。おらでもつく
ますので みんなに おしえたい
です。わたしは いっしょに
かみはります。
アドリガル インドネシア

▽ 6月～10月の研修 ▽

中野宗嗣さん（氷上郡春日町／酪農・有機農業）
上垣敏明さん（養父市／養鶏・有機野菜・米）
永菅裕一さん（神崎郡市川町／棚田・有機野菜）
上垣敏明さん（養父市／養鶏・有機野菜・米）
牛尾武博さん（神崎郡市川町／養鶏・野菜）
ステップハウス（高砂市／保健衛生）
滞在：神吉道子さん宅
橋本慎司さん（丹波市／有機農業・養鶏）
上垣敏明さん（養父市／養鶏・有機野菜・米）



上垣さんから鶏の発酵飼料の説明を受ける

指導者の一人に「インドネシアに戻らず、うちで一緒に農業をやろう」とまで言われたデリスさん。常に周りの空気と先を読み、的確に行動し、しかも仕事が丁寧との評判です。帰国後の計画も養鶏に力を入れるとはっきりしていて、将来的には「鶏の数を200羽まで増やしたい」と言っています。課題の一つは鶏舎の建設費用と飼料の内容。日本の研修先と同じ材料が全ては手に入らないので、代わりとなるものまでいかにたどり着くかが鍵となります。



ステップハウスにて障がいを持つ方々と学び合い

ランマヤさん （20歳・ネパール）



松江市にて母子保健の研修

これまで何を研修しましたか？

わたしは 日本で けうきのうきょうと
ほけんせいせいの べんきょう しました。が
いちばん よかったのは 人々の
わきめと しせんが いたたいた
はたけに けうき さいばい いかか
さくもつ そうだててる ことです。
まわりの 20人たちは 人々や
けうきのわきめとる とたくさん
とるのほ できないうまえて わきめと
た しりません。たか わきめのこと
みんなに おしえたいです。

村に戻ってチャレンジしたいことは、 何ですか？

わたしは 日本で たくさん べんきょう
できました。まわりの けうきょう
やいはいは ようちえん です。
まわりの こと どの あんせん と
けんこうの ために にほんの
NAMASTE かいが せんに ついた
がっこうで ようちえん ついて
がんばりたいです。
ランマヤ・ワマン
ネパール

▽ 6月～10月の研修 ▽

寺田正文さん（豊岡市／野菜・米）
はらっぱ保育園（西宮市／保健・保育）
滞在：前田公美さん宅
円谷豊子さん（篠山市／野菜・米）
松江市保健福祉総合センター
（島根県松江市／保健・高齢者福祉）
滞在：林満知子さん、佐藤玲子さん、
佐藤貞子さん、浜村愛子さん宅
シオン保育園（島根県隠岐郡西ノ島町／保育）
西ノ島町社会福祉協議会（西ノ島町／保健）
シオンの園ごさいな（西ノ島町／保育・介護）
滞在：佐倉真喜子さん宅
石原辰雄さん、PHD ひだ友の会
（岐阜県高山市／野菜）
泉精一さん（愛媛県松山市／野菜・土着菌）



円谷さんから脇芽についての指導を受ける

常に帰国後の自分を念頭におきながら研修に励んでいるランマヤさん。村に戻ってからやりたいことは「有機農業」「組合活動」「ヤギ飼育」「教員免許の取得」「幼稚園の開園」など盛りだくさんです。更に帰国2ヵ月後には短大マネジメント専攻の卒業試験が待っており、その勉強もしなくてはなりません。今後は「やりたいこと」と「やれること」を見極めながら、計画を組み立てることが課題です。



障がい福祉サービス事業所ごさいなの皆さんと

アチャンマさん （18歳・ネパール）



橋本さんの畑でビニールを用いて土の改良法を勉強

これまで何を研修しましたか？

はたけの つちを とかたし けうきょう
を べんきょう しました。
はたけに けうきょう
いれて つちと ませって その
ままで しろいの どニールを
かぶせると けうきょう の いい
に よい あります。この いい
うせいぶつ が きます。
あついで すかひの かわい
うせいぶつ と けうきの けうき
は しに まる。この うせいぶつ
は たかたの つちの けうき
たかまで いきまふ けうき
が けうき かいに つたります。
つち けうき かいと けうき、
くたもつは けうきで
いい けうき せい きます。

村に戻ってチャレンジしたいことは、 何ですか？

わたしは 村に かいせ けうき
はたけの つちを とかたし
の けうきょう したいです。あ
の けうきょう かいに ついて
あついで けうき 木村の
人たちに おしえます。
アチャンマ ラマ ネパール

▽ 6月～10月の研修 ▽

藤井誠次さん（神戸市北区／養鶏・有機農業）
渋谷富喜男さん（神戸市西区／野菜・有機農業）
真柴三幸さん（佐用郡佐用町／野菜・有機農業）
ささやま保育園（篠山市／保育研修）
丹南健康福祉センター（篠山市／保健研修）
滞在：小嶋英毅さん、山岸永子さん、
増岡ショーバナさん、渡辺拓道さん宅
円谷豊子さん（篠山市／野菜・米）
橋本慎司さん（丹波市／有機農業・養鶏）
ステップハウス（高砂市／保健衛生）
滞在：神吉道子さん宅



真柴さんからサイレージの指導を受ける

アチャンマさんの家は山間で、通りに出るには急斜面のケモノ道を通る必要があります。そのため卵やトマトなどは運搬中に傷つきやすく、売ることが困難です。そこでトマトなどは余剰ができればソースなどに加工してから市場へ出荷してはどうかと、次は加工品作りの研修を希望しています。同時に来日後に好物になった納豆の作り方も学び、ネパールで広めたいと語ります。「ネパール人みんな好きになるよ」とのことですが、果たして？



篠山の園児たちに大人気

第16期国内研修生 レポート

国内でも平和と健康を担う人材育成をしようと95年から実施している国内研修生制度。発足当初は6ヵ月間程でしたが、ここ数年は1年間と長くなりました。海外からの研修生と共に各地の研修先に出かけたり、海外スタディツアーに参加したりします。研修生と過ごす時間も多い国内研修生。日頃どんなことを感じているのか、お互いにインタビューしてもらいました。



安本真理子さん

念願の農業研修@篠山

藤原：円谷さんの所に行く前の農業に対するイメージはどんな感じ？

安本：大変そうなイメージがあって、自分がついていけるか不安だった。

藤原：それで実際、研修に同行しての感想は？

安本：楽しかった！10日ほどいてナスの水遣りを毎日やっていたんだけど、野菜が生長するのを目の当たりにして、すごいって。大雑把やけど頭ではなくて感覚として感じられた。あとは、料理の手伝いも結構させてもらって、私は料理好きやから楽しかった。畑から野菜を採ってきてすぐ料理して、ご飯になってそれ食べて、すぐ身体になってる感じ。健康的な生活はこうあるべきやなあ。

藤原：それ聞いていると現在って生産者と消費者の溝って深いよね。

安本：それにあと、野菜の値段ってすごく安いなって思った。

藤原：それはどこで思ったの？

安本：まず育てる手間。あと、農家の人は農協とかに入っていない限り、自分で流通先を見つけないといけない。育てる手間にしても植えてから収穫まで時間がかかる。需要と供給に乗せるものではないと思った。家庭菜園や援農とか、これからも何かしらの形で農業に関わっていききたいな。



8月、篠山の円谷さん宅にてランマヤさんと農業研修に



初夏、竹田城跡から下界を眺める2人（左：藤原さん、右：デリさん）

デリ先生!!
本当の国際人ってどんな人？



藤原峻悟さん

安本：藤原くんは、デリさんと仲いいよね。一緒に農業研修へ行って、何か感じることはあった？

藤原：デリさんに至っては、ほんとと先生みたいところがある。あの人は教えるようなことはしないんだけど、農作業とか、人に対する気遣いとか見ると、こうなりたいなって思う。農作業してる時は誠実で、ある種の使命感を持ってやっている。自分のペースで無理のない範囲でこなしていく。

安本：例えば？

藤原：疲れたら休んだり陰で昼寝したり、自分の身体のことを知ってるのかな。あとはね、次に何をすべきかを分かっている。鎌の使い方も見たことないぐらい上手。人間として生きるための力があるのかな、先進国側の人ってそんなことないと思う。

安本：私もそれはよく思う。

藤原：「国際人」＝英語が話せる人っていうイメージが強いけど、本当の国際人ってデリさんみたいな人じゃないかな。本当に世界で共通なことって農業や歌って踊れたりすることやと思う。

2人の研修は3月まで続きます。

インドネシア 帰国研修生短信

ダルミアティスさん（02年度）

午前中は55人が通う幼稚園で働き、午後は役場で勤務。ポシアンドゥではリーダーを、更に週2回大学で幼児教育を勉強中。



アルウィさん（01年度）

隣村の人と交渉し、村まで水を引っ張ってきている。現在は近所の数世帯だけだが、将来的には村全体に広げたいと考えている。



アリさん（87年度）

村長の仕事を続けながら、鯉の養殖や126世帯が加入する漁業組合の会計をしている。



インドラさん（10年度）

今年4月に近くの町の学校教師と結婚。ミナンカバウの習慣に従い、お連れ合いの家で暮らし、実家の畑で農業をしている。今後牛の飼育を拡張する計画。まずは生後8ヵ月の牛を購入し、2年8ヵ月間飼育し、約2倍の値段で販売したい。



ロザさん（09年度）

幼稚園の先生として働きながら、家で洋裁の仕事も。主な依頼は学校の制服や伝統衣服だが、更に高度な技術を要する伝統衣服も作れるようになりたい。



ペリスマンさん（08年度）

牛を飼育し、米やバナナやトウガラシなどを栽培しながら、大工としても働いている。



ヘルマさん（07年度）

村に新しくできた小学校で、インドネシア語の教師をしている。娘は3歳に。



サムスアリスさん（90年度）

漁師を引退し、9人の子供と一緒に暮らしている。



ハスマヤさん（92年度）

高校で日本語の先生として勤務。子どもは6人。



アフダールさん（00年度）

タベ村の村長。農業グループ「ファミリー」に属しながらトウガラシ、トウモロコシ、サトウキビなどを栽培している。



エルリナさん（03年度）

ミミさんと同じ幼稚園に勤務。昨年末に娘が産まれ、洋裁は現在休業中。



アフリタさん（04年度）

22人が通う幼稚園の先生。また注文を受け、主に小学校の制服を作っている。



リザさん（10年度）

今年3月に研修を終え、村にある幼稚園の先生をしている。またポシアンドゥ（母子保健活動）のボランティアメンバーとなり、地域の赤ちゃんと母親たちの健康向上に携わっている。日本で学んだ洋裁を更に深めるため洋裁学校に通いたい。



マスラルさん（05年度）

昨年4月に胃の病気にかかり、田畑での農作業ができない。大部分の田んぼを売却し、今は自宅療養中。



ダスウルさん（99年度）

研修生たちのリーダー的存在。タラタダマ村の灌漑や公共施設の建設プロジェクトなどを実施。お米は有機で作っており、主に自給用。他には牛を2頭飼っている。



一家の大黒柱。村の農業離れが心配

ミャンマー 帰国研修生 短信



ススさん (06年度)
自然素材で作ったシャンプー



村の人たちだけの力で図書館を建設中



ティダさん (92年度)
久々の再会。静養しながらも NGO で活躍中



トントンさん (93年度)
今年を通訳として活躍



トントトンさん (94年度)
AIDS 予防の活動をレクチャー



カイソウさん (96年度)
若いお母さんたちの保育園を作りたい

グループ「Simple Life」活動中！ ～水俣の経験から生まれた活動～

ティダさん、ススさんの2人が中心となって立ち上げたのが「Simple Life」(シンプルライフ)というグループ。

メンバーは15人。活動は既存のシャンプーを使うのではなく、自分たちで自然の素材からシャンプーを作ったり、中国から入ってきたお菓子を食わずに伝統的なお菓子を食することを実践し、呼びかけをしている。また森林伐採を考え直す啓発活動も行っている。来年度研修生として招聘するモーママさんも同グループのメンバーである。

立ち上げた理由をススさんは次のように語る。「私たちは日本で水俣病のことを勉強しました。人間が使うものが便利になって、その後ろに悲しいことがあったことを知りました。自分の村で水俣病が起らないように Simple Life の活動を始めました。」

便利で安価なものだけを求めるのではなく、地球環境全体のことを考え、生活を行う。これはPHDが目的とする一つの方向性でもある。期待したい。



ティダさん (07年度)
マラリアの簡易検査を行う



ソウジンさん (04年度)
レモンなど果実作りの名人、笛吹きの活動も



ケンタイウエさん (03年度)
寒者さんの土産の歯ブラシで歯磨き指導をしたい



スウさん (02年度)
マンゴーを中国国境で販売



ザーナウンさん (09年度)
農作記録をママにつけている

税額控除対象法人となりました。
小口のご寄附にも減税効果が大きくなります。

■□■ ご寄附をいただいている個人の皆さまへ ■□■

当会は公益財団法人の認定を受けており、当会へのご寄附は所得税の税制上の優遇措置があります。それに加えて、この度9月5日付で兵庫県より税額控除の対象となる法人の証明をいただきました。

◆9月5日以降のご寄附について◆

確定申告において所得控除として寄附金控除の適応を受けるか、所得税額から一定割合を控除する税額控除の適応を受けるか、いずれか有利な方を選択することができます。詳しくは下記のとおりです。

- 1) 寄附金控除額＝寄附金合計額（所得金額の40%を限度とする）－2千円
- 2) 税額控除額＝次の①または②のいずれか少ない方の金額
 - ①（平成24年中の寄附金合計額－2千円）×40%
 - ② 平成24年分の所得税額の25%に相当する金額

確定申告の際には、当会が発行する「領収書」と「公益財団法人であることの認定書」、もしくは「税額控除に係る証明書」が必要です。

今回の会報とともに「税額控除に係る証明書」をお送りさせていただいております。確定申告の際に、税額控除の適応を受けられる方は、当会の領収書とともに添付してください。

<所得控除の特徴>

所得から寄附金額を控除した額に税率をかけるので、所得税率が高い方の減税効果が大きくなります。

<税額控除の特徴>

税額を算出したあとに、税率に関係なく寄附金額の一定割合を控除するので、所得控除に比べて、小口のご寄附にも減税効果が高まります。

第31期生のホストファミリー募集！



ダリスマンさん
(インドネシア・20歳・男性)



モーママさん
(ミャンマー・21歳・女性)



プレム・ドジュ・ラマさん
(ネパール・38歳・男性)

期 間：2013年4月中旬～2014年3月中旬の約1年間
 ＊来日後の日本語研修中（6週間）は毎日、現場研修開始以降は、月平均1週間～10日程度。12月～3月は、研修内容により月2/3～3/4程度となります。

経 費：当会規定の食費、滞在費をお支払いいたします。
 その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。

応募条件：当会事務所から公共交通機関で1時間以内で通える範囲のご家庭。



書き損じた年賀はがきは PHDへお寄せください！

書き損じた年賀ハガキ、未使用のハガキがありましたら、ぜひPHD協会までお送りください。

郵便局で新しいハガキや切手に交換し、日々の領収書や書類の郵送、行事の案内等に活用させていただきます。

昨年度は皆様から年間33万円相当の書き損じハガキや未使用ハガキをいただきました。今年度もよろしくお願いいたします。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2012年 6月	48件	¥637,690
7月	221件	¥1,995,527
8月	131件	¥1,493,194
9月	62件	¥859,344
462件		¥4,985,755

上記の通り多くの皆様より貴重なご浄財を賜りました。皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。

◆今年も連合、自動車総連の皆様よりご寄附をいただきました

今年も日本労働組合総連合会「愛のキャンパ」と全日本自動車産業労働組合総連合会「福祉キャンパ特別寄贈」をいただくことができました。第30期研修生の研修費用に充てさせていただくとともに帰国研修生のフォローアップに使用させていただきます。ありがとうございます。

◆A4の裏紙をご寄贈ください

当会内での書類に裏紙を活用しています。皆様のお手元に裏紙がありましたら、お手数をおかけしますが、当会にお寄せいただけませんか？

◆西日本研修旅行

1月中旬に約2週間、研修生が西日本各地を訪ねます。各地で学ばせてい



PHDとは何だろうか？かつてはその頭文字であるPeace（平和）、Health（健康）、Human Development（人材育成）からわかったつもりでいました。

しかしこの夏スタディツアーに参加し、その現場を職員と元研修生たちと訪れることにより、PHDの奥深さを知ることができたと思います。PHDが地域の人々とどのよ

うに接し、どのような戦略を用いてその目標を実現しているのかを垣間見ることができました。大変うれしいことに、元研修生たちは互いに仲良く、日本から持ち帰った知識や技術や考えを地域の発展のために活用していたことです。

ただくとともに、交流の会をもちます。お近くの方には交流会のご案内を送りしますので、ぜひお越し下さい。

宮崎～鹿児島～熊本～福岡～山口～広島～岡山

◆ダイハツ労働組合の皆様よりご寄附をいただきました

ダイハツ労働組合の「愛のかがり火募金」をいただきました。障がい者や恵まれない人びとへの支援を目的とされた募金です。労働組合青年部の方々が目録を持って事務所まで来て下さいました。ありがとうございます。

◆カマル・フィヤルさんに行く ネパールスタディツアー ～幸せのための開発とは？～

地域住民主体で開発を行うカマルさんの活動現場を訪問し、ネパールの人々と交わりの時を持ち、開発のあり方を共に考え、ネパールを感じましょう♪

詳細が決まりましたら、詳しいパンフレットをお送りします。当会までお問い合わせください（担当：今里）。

日程：2013年3月20日～29日（閑空発着）

参加費：既会員 215,000円（予定）

新会員 220,000円（予定）

+会費 5,000円

申込締切：2013年2月下旬

事前説明会：2013年2月末頃

※参加費には海外旅行保険料、燃料サーチャージが含まれています。

※日程、参加費は予定です。諸事情により変更する場合があります。ご了承ください。

うに接し、どのような戦略を用いてその目標を実現しているのかを垣間見ることができました。大変うれしいことに、元研修生たちは互いに仲良く、日本から持ち帰った知識や技術や考えを地域の発展のために活用していたことです。

私はPHDとのかかわりを更に深め、ボランティアという立場からその目標を共に目指します。

シェン

〇月×日のPHD協会

「つつい、やってしまうこと」

職員 坂西 1歳半の娘を溺愛。休日は娘と散歩が日課。最近テレビで短髪、眼鏡、髭の人を見て「あった」と喜ぶ娘。他人と勘違いされちょっと寂しい。

職員 川原 ついチョコに手がのびてしまう。冷蔵庫に4～5種類を常備し、食べない日はない。掃除が一段落した後のチョコが至福の時。しあわせ～。

職員 井上 氷を食べてしまうこと。好きすぎて、他人が残した氷にまで手を出す。驚いた友人から「病気ちゃうん？」と指摘が。検索すると「氷食症」。へえ。

職員 今里 今回のネタを妻に相談すると「記念日を忘れる」と即答される。誕生日を忘れる、結婚記念日を忘れる等、忘れまくり。でも仲良しな二人。

国内研修生 藤原 自転車で通学中に新しい道を発見すること。毎日同じ道に行くのは退屈。急がば回れ、迂回した方が早い時が多々。最近の楽しみは畑の作付状況の観察。

国内研修生 安本 家での一人呑み。健康の為にも控えたい。冷蔵庫に買い置きしない等の対策はばっちり。ただ自家製の梅酒の完成が近い。どうしよう。

職員 芳田 畑で虫に話しかける。アリンコが畑にまいた肥料の米ヌカを持っていく。「ちょっとだけやで」とこどもも分かち合い。PHD運動の実践がここに。

以上、夜ふかしすることが多い順

制作協力：菅原宗晋

